

<p>芸術・スポーツ</p> <p>keyword</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 「声」による表現 ～ 人間の可能性を歌う</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 ■ 発声 ■ 言葉 ■ 音楽 ■ コミュニケーション ■ 対話 	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>■ 動物としての、「声」による表現</p> <p>人は自分の意思や考えを伝えるため、様々な形で表現しようとします。「声」、「言葉」を用いての表現は中でも有効性の高いものであり、「歌」は、その「声」と「言葉」を最大限に活用した表現形態です。</p> <p>私は声楽を生業としていますが、様々な舞台上立って歌いながら思うのは、しばしば人は、話や詩の内容でなく、その「声量」や「^{こゝろ}声^ね音」といった「単純なエネルギー活動」によってこそ、心動かされることがある、ということです。「歌をうたう」という行為のために必要不可欠な「声」は、人間を含めた多くの動物が持つ、もっとも原始的な表現手段です。「生物」は主張します。「叫び」や「唸り」は、自らの存在・意思を示すために発せられる「主張」です。たとえば、狼族の遠吠え、鳥の歌声… ヒトの「声」も同じく、我々「人間という生物」の主張を示す重要な表現ツールなのです。</p>
<p>渡邊 史 Aya Watanabe</p>	<p>■ 表現ツールとしての「声」</p> <p>「声」が、それを発する者の印象を左右する要素になるのは言うまでもありません。映画がサイレントからトーキーへと移っていった 1927 年以降、容姿と声のギャップが埋められずに消えていった俳優・女優は多いと聞きます。たとえば、「ハリと輝きのある、ふくよかな、そして柔軟な、さらには、明るく、耳に聞き取りやすく、滑らかで、抑揚と陰影に富み、時にやさしく、時に劇的な、可能性を感じさせる生命力にあふれた声」を持っている人がいたら、その人に、どんな印象を持つでしょうか。</p>
<p>教育学部 准教授</p>	<p>「声」は表現ツールの一つです。人に対するとき、我々は髪を整えたり、TPO になかった服装を心がけたりと、身だしなみを整える。これは、少しでも相手の心に添うように、自分と相手の関係を滑らかなものにしようという努力です。しかし、現代日本において、それら「声」、「言葉」という表現ツールの可能性、必要性に思い至り、有効に使いこなしている人は、残念ながら少ないと言わざるを得ません。</p>
<p>【プロフィール】</p> <p>●専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌手 ・ヴォーカルコーチ ・発声指導 <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京生まれ ・東京藝術大学音楽学部声楽科ソプラノ専攻卒業 平田恭子氏に師事 ・東京藝術大学大学院声楽ソプラノ独唱専攻修了 ・同校定期演奏会、オペラ、オトリオ、双方にリストとして選出され、デビュー ・デュッセルドルフにてヤコブ・スターノに師事 州立歌劇場首席コレパティール、ハンス・シュトルツ氏より、オペラ解釈およびレパートリー歌唱を学ぶ ・第4回日本クラシック音楽コンクール声楽部門第2位 ・第1回日本声楽家協会コンクール 第2位 ・ミレニアムニュークラシックオーティション第1位、審査員特別賞、オペラアリア賞受賞 ・第1回東京音楽コンクール声楽部門 入選 ・第18回日本声楽コンクール入選 ・2012年より 滋賀大学教育学部 准教授。 	<p>■ 自分の「声」と向き合う</p> <p>「声」は磨くことができます。容姿や服装センスと同じく、「生まれ持った資質」は確かにありますが、後天的に声を磨くことは、十分に可能なのです。具体的には、声にふさわしい「姿勢、呼吸、口形、舌の位置」、を保持することで、自然と「本来その人が持っている声の最大限の可能性」が導き出されます。加えて「こんな声を出したい」という意志と「こんな声がある」という必要性に思い至ることが原動力となります。これらを踏まえて一定の継続的努力を行えば、必ず「声」を磨くことができ、そうして磨いた「声」は、発する「言葉」に力を与えます。これこそ「歌」の両翼であり、どちらが欠けてもいけません。</p>
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京二期会 会員 ・財)地域創造協力アーティスト ・コンサート、オペラなどに、リストとして多数出演中 	<p>■ 「声」の磨き方。「自分の可能性」の発動。</p> <p>「クラシック」という言葉には「古典」という以外に「第一級の」という意味があります。人の行う様々な「芸＝技」の中で、「歌と舞踊」は、道具に依らず、まったくの空手で事にあたる、原始的な活動です。「声」のためのテクニックをもっとも効果的に学び、体系的に「型」として身につけられるのが、【クラシックの声楽メソッド】です。クラシックバレエと声楽のメソッドは、人間の身体能力をもっとも高く引き出すための、体系だった理論であると言えます。自分の骨格や筋肉といった身体組織を明確に意識し、全身を使うことで、本当の「自分の声」に出会うことができるのです。</p> <p>■ 講演、ワークショップの例</p> <p>小学校4年生以上から社会人、高齢者まで、幅広い年齢層を対象に「発声、発音、歌唱、朗読、表現」、など、声と言葉による題材を用いた参加型講演、ワークショップを行っています。教育現場での授業、PTA や教育委員会の主催、地域団体の企画、または一般企業主催の社員研修会など、様々な形で依頼がありました。演奏鑑賞と組み合わせた、トークライブ形式もご好評いただいています。</p>